

平成18年7月20日
原子力安全対策課
(18-28)
<11時記者発表>

敦賀発電所1号機の原子炉手動停止について
(原子炉再循環ポンプメカニカルシールの機能低下)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉；定格出力35.7万kW）は、6月1日復水器伝熱管からの海水漏洩が発生したため、出力を約42%として補修作業を行い、6月18日から定格熱出力一定運転中のところ、この時から3台（A、B、C号機）ある原子炉再循環ポンプのうち、B号機の軸封部^{*1}（メカニカルシール：第1段シール部と第2段シール部を有する）のうち、第2段シール部から機器ドレンサンプに回収されるシール水の量が徐々に増加する傾向が認められた。

このため、監視を強化していたが、シール水の増加傾向が大きくなってきたことから、今後の運転に万全を期すため、計画的に原子炉を停止し当該軸封部を取り替えることとした。

今後、7月21日20時頃から出力降下を開始し、翌22日0時頃発電停止、同日5時頃に原子炉を手動停止する予定である。

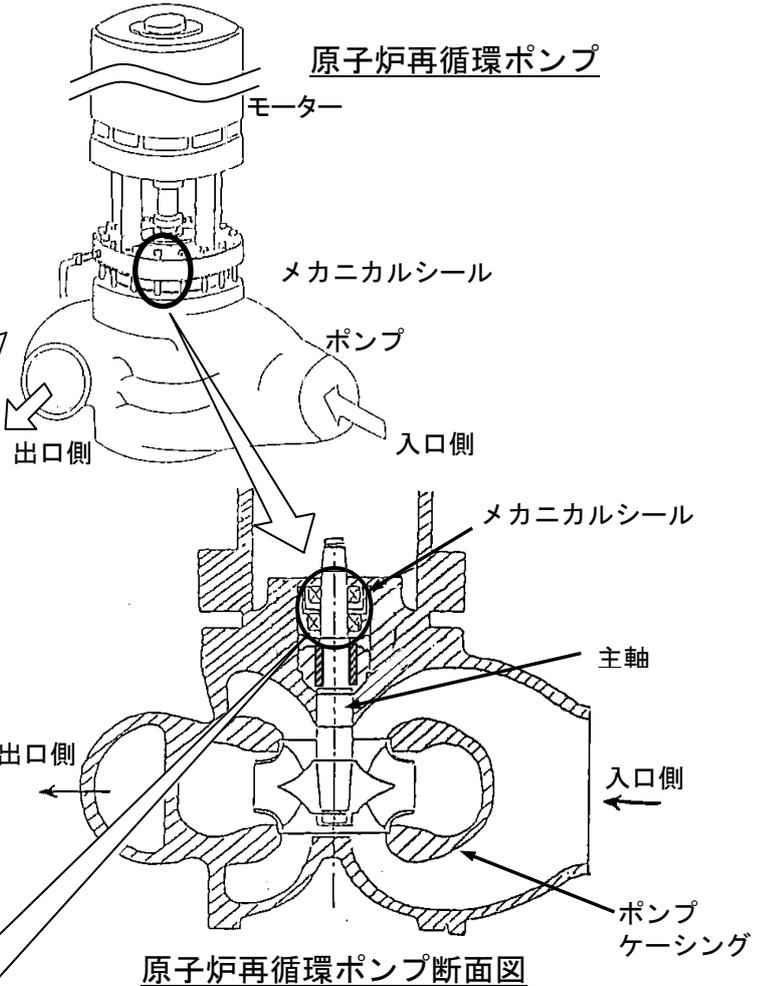
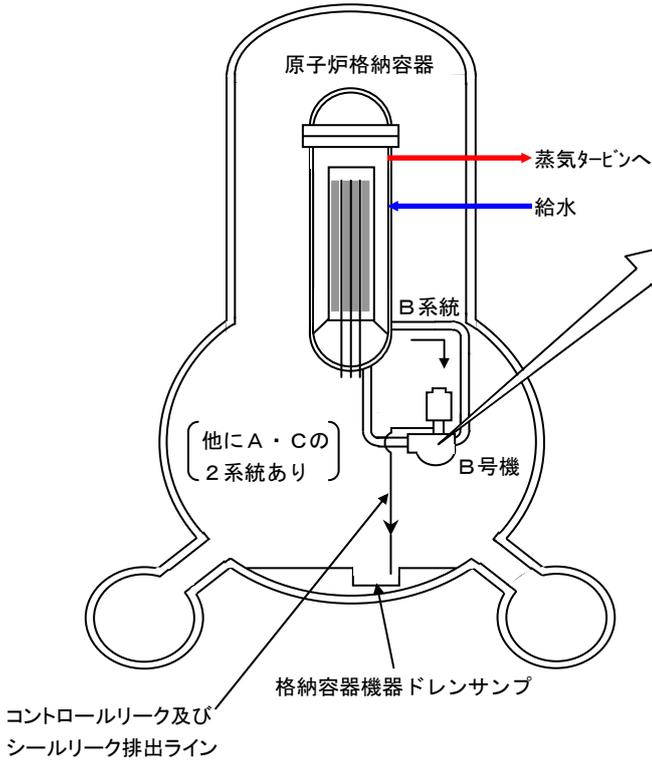
なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

*1：回転するポンプの主軸に沿って冷却水がモーター側に漏れ出ないように、専用のシール水を軸封部に注入し、ポンプ軸につながる回転リングと固定リング（ケーシング側）との間での接触部で漏れを抑制する構造となっている。

問い合わせ先(担当：三木)
内線2354・直通0776(20)0314

原子炉再循環ポンプメカニカルシール部状況説明図

系統概略図



メカニカルシール概念図

